

『「数検」グランプリ金賞』二年連続受賞を受けて

女子中学校・高等学校教諭 宮 本 真理子

財団法人日本数学検定協会による審査の結果、同志社女子中学校・高等学校が、2007年度に続き2年連続で、『「数検」グランプリ金賞』を受賞しました。この受賞結果は、生徒たちが「数検」、そして「数学」に対して前向きに取り組んだ結果だと思えます。そして、この「数検」を通して、生徒たちが「数学」に対してより主体的に取り組むようになったのではないかと思います。

「数検」実施の意義

本校での「数検」への取り組みは、2006年度からスタートしました。数学科では、この「数検」の受検を生徒たちに推奨し、当初は、十数人だった受検者が、現在では年に2回、ともに百数十人上る生徒が受検するようになりました。生徒たちに「数検」の受検を勧めるには、大きく二つの理由があります。

な努力目標ができ、勉強する「動機」になるのではないかと思っています。

(2) 外の世界に目を向ける

本校生徒の大多数は、同志社大学と同志社女子大学に進学します。したがって、生徒たちは、外の世界に目を向ける機会がどうしても少なくなってしまう。クラブ部活動であれば、市や府、あるいは全国で大会があり、自分たちがその中でどの位置にあるのかを推し量ることができません。しかし学力面では、学内の定期試験に終始してしまうため、自分たちが世間の中のどの位置にいるのか、外の世界に目を向ける機会がほとんどないのが現状です。それによって、「井の中の蛙大海を知らず」になることもあれば、逆に自分のことを過小評価することもあります。しかし、検定は絶対的な学習指標であり、世間的な評価です。したがって、生徒が外の世界に目を向ける機会になります。また、それを通して外の世界にも目を向けることの重要性を意識させることもできるのではないかと思います。

「数検」受検による生徒たちの変化

「数検」を受検した生徒たちの様子を見てみると、期待以上に前向きな変化が見られました。「数学を勉強する動機になれば」と期待し、この「数検」を実施したのですが、受検した生徒たちは、単に「数検」をきっかけに勉強するようになっただけでなく、「主体的に」数学に取り組むようになったように思います。友人同士で「上の級を受けよう！」と誘い合い、それに向けて一緒に勉強する生徒たち。教員に上級生の教科書を

(1) 勉強の動機付け

受験勉強のない本校の生徒たちは、のびのびとした学校生活を送ることができません。しかし、日々の勉強をするための動機に欠けてしまう傾向があります。そして普段からこつこつと勉強をしていないので、定期試験前に僅かな傾向と対策だけで、「かなり勉強した」という気になってしまっていることがあります。仮にその僅かな傾向と対策で定期試験を乗り切れたとしても、それでは本当の学力を身につけることできません。そこで、生徒たちがより勉強するための「動機」が必要になってきます。

「検定」は、その一つの「動機」になるのではないかと思います。検定は合否が第三者からはつきりと言い渡されず。資格にもなるその合否は、世間的な評価だとも言えます。したがって、合格すれば世間から認められたということになり、嬉しいし自信にもなるでしょう。逆に、不合格になると悔しいものです。だからこそ、合否に関わらず、「次は何級！」と具体的

借りたり、未習分野を自分自身で勉強する生徒たち。このような「主体的に」取り組む生徒の数が増えたように感じます。

また、受検者たちは、自分で考えてから質問に来るようになったように思います。年々、最初から自分で考えることを放棄し、解答片手に一から十まで教えてもらおうとする生徒が増えています。しかし、受検者たちは、「ここまでではこう考えただけ、ここで詰まってしまいました。」と、自分の頭を使ってから質問にくることが多くなったと感じます。

これらの取り組み姿勢の変化は、「数学」というコンテンツ以上に、生徒たちにとって財産になるのではないかと思います。そして、こういった変化は、「強制」ではなく、あくまでも自分から「自主的に」受検するからこそ生まれたものだと思います。したがって、これからは生徒たちには「数検」の受検を、「強制」ではなく「推奨」していきたいと思えます。

「数検」を通して期待すること

数学は、苦手、嫌いという人が多くなる学問のようです。そして男性以上に、女性にその傾向が強いようです。それもあって日本では、理系における女性の割合が極めて低いという現状にあります。しかし、必ずしも女性が理数能力に劣るといふことは決してないと思えます。『「数検」グランプリ金賞』2年連続受賞という栄誉を女子中高の生徒たち一人ひとりが自信とし、これまで以上に「数学」に対して主体的に取り組む、理系分野にどんどん進出することを期待しています。

『2011年、同志社に新しい学校が生まれます。』

同志社国際学院設置準備室 室長 大迫 弘和

「良心の全身に充滿したる丈夫ますらふの起りきたらん事を」¹。I earnestly desire that many young people filled with conscience will be raised and sent out by our school。」

2011年、同志社に新しい学校が生まれます。その学校は勿論同志社の建学の精神「良心教育」を実施する学校です。その新しい学校の名前は「同志社国際学院」と言います。英語名は「Doshisha International Academy」²、略称はDIAとなります。

「同志社国際学院」は同志社大学附属の学校です。
初等部と国際部

「同志社国際学院」は二つの学校から成り立ちます。その一つは同志社国際学院初等部（以下「初等部」）です。「初等部」は小学校1年生から6年生までの小学生が学ぶ小学校です。「初等部」では海外での生活を体験したことがある子どもたちと、国内ですつと育ってきた子どもたちがいっしょに学びます。おおよそその割合が半分ずつになるようにと考えています。2011年4月開校となりますが、開校時には小学校1年生から3年生までの3学年の子どもたちが入学します。1クラス30名の少人数教育を行います。各学年は2クラスずつに

初等部の「日英バイリンガル教育」

「初等部」では「日英バイリンガル教育」を行います。6年間の学習全体の45%を日本語で、55%を英語で行います。文部科学省から「教育課程特例校」の認定を受けていますので、そのような日英バイリンガルでの授業を実施することが可能になっています。音楽や図工や体育は「国際部」の子どもたちもいっしょに学びます。そのような時、授業言語は英語になります。同志社国際学院が開校する2011年は、小学校の「学習指導要領」が新しくなり、すべての小学校で5年生から全員が「英語」を学習することになる年にあたります。そのような時代の流れの中、「初等部」の英語教育が「日本の児童英語教育のモデル」となり、同志社国際学院が「児童英語教育の聖地」と呼ばれるようになることを目指したいと思っています。

「初等部」は日英バイリンガルスクールですから、子どもたちは日本語でもしっかり学んでいきます。たとえば算数では、まず日本語ですべての単元を学び、その後にくつかの単元をピックアップして英語で学びます。

「初等部」の子どもたちは、バランスのよい日英バイリンガル児童として育っていきます。

国際部と「国際バカロレア」

世界中から集まった子どもたちが学ぶ「国際部」では「国際バカロレア (International Baccalaureate = IB)」という国際的なカリキュラムで1年生から12年生までが学びます。「国際バカロレア」とは「異文化の理解と尊重を通じ、よりよい、より平和的な世界の構築に貢献できる、知性と向学心と思いやりのある子どもたちを育てる (IB 使命宣言)」ことを目的とした

なります。

もう一つの学校は同志社国際学院国際部（以下「国際部」）です。「国際部」は「インターナショナルスクール」です。「インターナショナルスクール」という学校を簡単に説明しますと、それは世界中の子どもたちが集まり、世界中から先生方が集まり、英語を主要な授業言語として学習を行う学校、ということが出来るでしょう。「国際部」もそのような「インターナショナルスクール」です。1年生から12年生（「インターナショナルスクール」での学年の呼び方で、12年生は高校3年生にあたります）までの12学年の子どもたちが学ぶこととなります。世界のインターナショナルスクールの多くがそうであるように「国際部」も学年度を9月から始めます。ですから2011年の9月に「国際部」は開校します。開校時に12学年すべての子どもたちが入学します。1学年は1クラス、25名が定員です。

「初等部」「国際部」の子どもたちは京都府木津川市木津川台の新キャンパス（同志社大学研都市キャンパスから約700mのところになります）の同一校舎内です。

国際的なカリキュラムです。

IBはその目標と価値観の簡明な表現として、また国際感覚を持つとはどういう意味かを定義するものとして「IBを学ぶ人の人間像」というものを持っています。同志社国際学院では、「国際部」のみならず「初等部」においても、その10の「IBを学ぶ人の人間像」(Inquirers・Knowledgeable・Thinkers・Communicators・Principled・Open-minded・Caring・Risk-takers・Balanced・Reflective)を同志社の三つの教育理念「キリスト教主義」「国際主義」「自由主義」と図1のように融合させることにより、同志社国際学院としての「良心教育」を実施していきます。

The Conscience Education @ DIA 同志社国際学院の『良心教育』

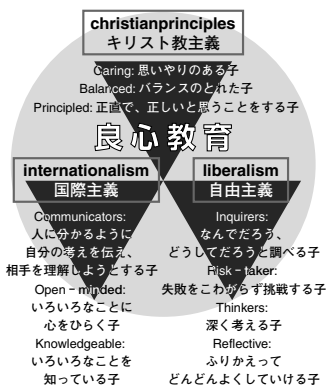


図 1

同志社国際学院が、真誠の自由を愛した校祖新島襄の思いと、神様の愛と、子どもたちの輝くまなざしと、働く教職員の笑顔がいつもキャンパス全体に満ち満ちた素敵な学校になりますように。皆様のお力をお借りしながら、子どもたちを愛と希望と光に包み込む同志社らしい素晴らしい学校を作っていければと願っております。